

止。9時50分、ヤブをこぎながら下降を開始する。30分程で急なナメ状の沢に降り立つ。プッシュにつかまり、スリップに注意しながら下降していくと、10m程の滝が現われる。そしてその先には5mほどの滝が続いている。しかし特に下降困難な所もなく、滝の側壁などを捲くようにしながら下降を続ける。30分ほどで水量比1:1の二俣(右俣左沢出合)となった。

二俣の先にも滝がかかる。2段4m, 2段7m, 3mと続く滝である。これを越えると沢は傾斜を緩め、伏流状を呈してくる。11時55分、本流に出合い、下降終了とした。

(記・

[タイム] 下降開始(9:50)→左沢出合(10:50)→下降終了(11:55)

### 下ドウヒョウ沢右俣 1992年6月13日

今日は、夏合宿の予備調査をかねて、男鹿山塊の大川流域に入りました。

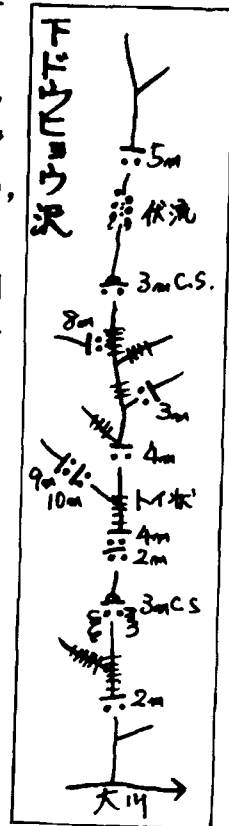
下ドウヒョウ沢出合近くの林道の路肩に車を止め、7時10分、遡行開始です。約10分歩くと最初の滝が出てきました。2mです。そしてすぐにナメが続き、3m C.S.滝, 4m滑滝(階段状), 2m, 4m 2段滝と続き、なかなか期待できそうです。

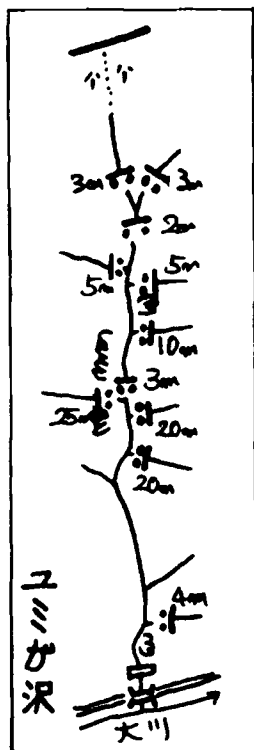
遡行を開始してから約40分、最初の小休止としました。地図の等高線の込み具合から予想した通り、岩盤状で急傾斜の沢ですが、同じような勾配で沢が続いていて、大きな滝はなさそうです。

遡行を再開。まず4mの滝。これを越えていくと、左右より支沢が小滝をかけて合流してきます。沢は傾斜がさらに急になり、沢幅も狭くなってミニゴルジュの感じですが、3mのC.S.滝を越えると、ようやく沢の中心部を通過したようです。

このあと沢は、土砂のため伏流となりながらも高度を上げていきます。5mの最後の滝を過ぎ、階段状の岩盤を登りつめると、やがて沢はヤブの中に消えていきました。ヤブをこいで、9時30分、尾根に出ました。

(記・





【タイム】 出合(7:10)→遡行終了(9:30)

## ユミガ沢 1992年6月13日

LE

夏合宿の偵察を兼ねて、男鹿山塊大川流域の支沢を遡行する。

7時ユミガ沢の遡行開始。大川への合流点の様相から感じた通り、平凡な沢である。何もなまま45分遡行して小休止しようとしていたら、右岸から合流する支沢から2頭のカモシカがかけ降りてきた。カモシカは今にも我々に飛びかかってくるのではないかという勢いでかけ下ってきたが、直前でカーブを切り、いったん下流へ下ったあと、また引き返して右岸の樹林帯へ消えていった。

思わぬカモシカとの遭遇のあと、気を取り直して先に進む。左右からの支沢に滝がかかるようになったところで本流にも小滝が出て来る。3m。このあと沢は岩の割れ目のような所を流れるようになり、やがて岩屑のいっばいつまったミゾ状の流れとなる。平凡なままに高度だけ稼ぐようになり、やがてガレ状となって終了となる。あとはクマザサのヤブをこいで尾根へ。

(記

【タイム】 出合(7:00)→ユミガ沢終了(8:30)→尾根(8:50)

## ヤマナシ沢右俣 1992年7月25日

LE

B

テン場にてそれぞれのパーティに分かれ、遡行予定の沢に散ってゆく。我々の目標はヤマナシ沢である。8時20分、出合。遡行開始。

すぐに最初の滝、3m。さらにナメを進んでいくと、3m、8mの2段の滝。シャワークライムで越える。そして3mの滝。これを越えると沢は平凡になってしまった。